2022年5月1日発行 毎月1回1日発行 第730号

九経連月報
おすの九州・山口
KYUKEIREN MONTHLY

2022
5
May

巻頭言 後世につなぐ責務　理事　西村 松次〔(株)九電工 会長〕

活動報告 九州将来ビジョン2030実現に向け「九州から日本を動かす」モデルづくりを～2022年度事業計画(案)を承認～
第168回理事会

ジェンダー・社会構造・自治体連携の3つの視点から脱アンフェアを考える
KYUSHU NEXT 2021～われわれはどうやって九州を動かしていくのか～

ダイバーシティ・インクルージョン(D＆I)の必要性やその意義とは
福岡県女性活躍実践会議と九経連会長による意見交換



ゆっくり・おいしい・楽しい列車「ことこと列車」(福岡県)

一般社団法人
九州経済連合会

動画はこちらから

九経連月報
おすの九州・山口
2022/5

CONTENTS

巻頭言

後世につなぐ責務
（一社）九州経済連合会　理事　西村　松次〔㈱九電工　会長〕… 1

九経連活動報告

九州将来ビジョン2030実現に向け「九州から日本を動かす」モデルづくりを　～2022年度事業計画（案）を承認～
第168回理事会 … 2

ジェンダー・社会構造・自治体連携の３つの視点から脱アンフェアを考える
KYUSHU NEXT 2021　～われわれはどうやって九州を動かしていくのか～
ダイバーシティ「幸せコミュニティ」推進委員会 … 4

ダイバーシティ・インクルージョン（Ｄ＆Ｉ）の必要性やその意義とは
福岡県女性活躍実践会議と九経連会長による意見交換 … 5

日誌（３月）…… 6

講演要旨

地域的な包括経済連携（RCEP）協定の概要について
経済産業省 通商政策局 経済連携課 経済連携推進専門官　柴　多佳彦 … 9

女性の力・アイデアを生かした地域農業活性化　～農業女子プロジェクトの取り組み～
福岡農業女子グループ「Happy Farming ～いいっちゃない福岡」代表　星野　純子 … 10

関連団体等

女性がリードするビジネスと社会の変革　「WE-Nextの会」…… 11

会員紹介

メカトラックス株式会社 …… 12

一般社団法人在日フランス商工会議所 …… 13

合同会社ベトハシ …… 14

沖縄観光通信

～ミス沖縄がおススメする沖縄観光情報～　果報（かふう）バンタ …… 15

九州・山口地域動向

… 16

表紙説明・スケジュール（５月）

… 19

後世につなぐ責務

巻頭言



（一社）九州経済連合会　理事
西村　松次
〔㈱九電工　会長〕

昨年４月、創立60周年を迎えた九州経済連合会は、「九州将来ビジョン2030」を策定し、ありたい姿の実現に向けて『10の課題』を掲げました。その課題②「カーボンニュートラルを先導するエネルギー環境の整備」について、私の所感および当社の取り組みをご紹介させていただきます。

近年、地球温暖化による異常気象が招く大規模な風水害は、日米欧の他、世界中で多発しております。その最大の要因は化石燃料によるエネルギーの大量消費であると考えられます。戦後、鉄鋼・造船等の重厚長大型産業や自動車・航空機産業等は、私たちの生活を豊かにした一方で、これらのエネルギーを消費しながら急速に成長してきました。この化石燃料に関する問題の解決には、世界各国が積極的に取り組んだとしても数十年は必要と思われます。私たち世代にはこの地球規模の課題に対し、真摯に、かつ誠実に取り組み、後世に方向性を示す責務があると強く感じております。

このような中、当社は『快適な環境づくりを通して社会に貢献します』という企業理念に基づき、長期ビジョンの中で３つの貢献（社会課題の解決、脱炭素社会の実現、地域公共インフラの維持・発展）を掲げ、サステナビリティ経営に取り組んでおります。

具体的には、再生可能エネルギー（太陽光・風力・バイオマス等）発電所の建設、さらには一般電気・空調設備の省エネ技術などを通して、地球環境への配慮に努めております。当社が開発した九電工EMS（エネルギーマネジメントシステム）は鉛蓄電池により、出力変動が激しい自然エネルギーをコントロールします。そして、電気の安定供給を行います。さらに、災害時に停電しても、電気の使用が可能になります。これは、九経連が掲げた『10の課題』の⑩「防災レジリエンス・バックアップ機能強化」に対する解決策の一つとして、自然災害の多い九州地域においても大いに役立てるものと確信しております。

昨年７月、当社は再生可能エネルギー事業を集約した組織として、「グリーンイノベーション事業本部」を設置いたしました。さらに、昨年末には自社の事業活動に関するCO_2排出量削減の中長期目標を定め、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言への賛同を表明いたしました。これまでの当社は、設備工事会社としての側面がメインでしたが、近い将来には、カーボンニュートラルなスマートシティなどのまちづくりを通して、地域社会のエネルギーインフラや公共サービスなどをトータルでサポートする企業に進化していきたいと考えております。

昨今、先行き不透明で予測不可能な時代になっておりますが、九経連のミッション「九州から日本を動かす」気概のもと、あるべき姿の実現に向けた『10の課題』をしっかり認識したうえで、カーボンニュートラルへ全力で貢献していく所存であります。引き続き、会員の皆様の温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

九州将来ビジョン2030実現に向け「九州から日本を動かす」モデルづくりを ～2022年度事業計画（案）を承認～

と　き　3月23日（水）
ところ　福岡市・ホテルニューオータニ博多
出席者　20名

第168回理事会

当日は倉富純男会長を議長に、①諮問委員、顧問、特別顧問 選任（案） ②2022年度事業計画（案） ③2022年度収支予算（案）を審議した。

本会では2022年度を、第１期中期計画（2021～2023年度）の２年目として「九州将来ビジョン2030」に掲げた３つの戦略（地域共創withコロナ、ありたい姿実現に向けたチャレンジ、みらいへの投資（基盤整備））の遂行に向けた活動を一層強化し、具体的な成果につなげていく重要な１年と位置付けている。そのため2022年度事業計画（案）では、中期計画に沿った主な事業を整理するとともに、その中でも先導的な取り組みを「九州から日本を動かす」モデルづくり事業として明記し、会員企業や関係各所と連携しながら九州全体への展開を図りつつ事業を推進していくこととした。

審議の結果、提示した全ての議案について承認いただいた。

続いて報告事項として、今年６月７日の本会第62回定時総会後の創立60周年記念式典での公表を予定している「幸せコミュニティ指標」について、事務局より指標策定の考え方や検討状況について説明し、意見を伺った。



2022年度「九州から日本を動かす」モデルづくり事業

戦略	中期テーマ		「九州から日本を動かす」モデルづくり
1 地域共創 with コロナ	コロナ対応		（地域経済Ｖ字回復、 ヒト・モノの交流活性化に最優先で取り組む）
2 ありたい姿 実現に向けた チャレンジ	産業	産業 イノベーション	**★イノベーション・エコシステム構築** スタートアップへの成長支援、地域企業へのDX支援 スマート化に取り組む地域の拡大
		グリーン 成長	**★需要側を含めた環境先進モデル構築** ＥＳＧ金融推進、企業の環境経営推進
		アジア 活力	**★新たな観光資源創出への挑戦** ツール・ド・九州、九州・長崎IR
	地域	人を 惹きつける	**★農林水産業活性化共創モデルづくりへの挑戦** **★観光を軸にした地域プロデュース**
		共助社会	**★心の豊かさを成長につなぐ「幸せコミュニティ」づくり**
3 みらいへの投資 （基盤整備）	分散型 広域連携		**★「九州スマートリージョン構想（仮称）」の具現化** データ連携基盤の構築、広域経済圏モデル検討 **★九州版MaaS構築と地域交通の最適化**

2022年度事業計画骨子

★「九州から日本を動かす」モデルづくり事業　　【最重点事業ＫＰＩ】

【戦略１】地域共創withコロナ

コロナ対応

○最優先課題：経済活動の根幹である人・モノの交流活性化
（「コロナ禍での九経連行動指針」に類するメッセージや、国・自治体への要請を機動的に発信）

【戦略２】ありたい姿実現に向けたチャレンジ

産業イノベーション

★イノベーション・エコシステム構築
①スタートアップへの成長支援：大学シーズへのギャップ資金投入　【ギャップ資金7,200万円】
各地の支援機関・コーディネーターの連携強化策の策定
②地域企業へのDX支援：経営者向け「九州デジタル経営塾」開催（4カ所）
デジタル化･IT活用支援の仕組みづくり※　【支援モデル事業の実施】
※地域の金融機関やITベンダーのプラットフォーム

○農業への企業参入やスマート化推進

○次世代産業への構造転換策の策定、実施
○九航協・第3次アクションプランの実行：参入支援、受注獲得

○都市機能の充実や高度化を目指す構想の実現
（国際金融機能の九州全域への波及、政府スーパーシティ構想指定への活動 等）

グリーン成長

★需要側を含めた環境先進モデル構築　【九州タクソノミー（仮称）策定】
①九州ESG投融資方針の策定と、推進体制づくり（地域金融機関等との連携）
②地域企業の脱炭素経営推進の具体策とりまとめ（新たな研究会設置）

○再エネ産業化推進：プロジェクト誘致に向けた展示会出展等

アジア活力

★新たな観光資源創出への挑戦　**➡目標：九州・長崎IRの区域認定**※全国で最大３カ所
①ツール･ド･九州：2023年第1回大会成功に向けた業務遂行
②九州･長崎IR　：区域認定に向けた九州IR推進協議会による活動　【区域認定/10月】

○各国政府・経済団体との連携促進　**➡目標：貿易総額5.8兆円**　※九州ーRCEP参加国
・「九州プロモーションセンター」起点の海外展開事例創出：ミッション派遣、現地商談会

人を惹きつける

★農林水産業活性化共創モデルづくりへの挑戦　**➡目標：九州輸出額1,600億円**
①支援基盤づくり：外部知見を活用した生産者支援事業の推進　【支援プラットフォーム整備】
「地域農業を地域企業で支える仕組み」基点の取組推進　【具体事例創出】

②支援基盤の強化：木造ビルトップセールス、「九州の食輸出協議会」等との協働（輸出促進）

★観光を軸にした地域プロデュース
・「街づくり事業」の遂行と成功事例の水平展開　【地方活性化連携協定（3地域）締結】

共助社会

★心の豊かさを成長につなぐ「幸せコミュニティ」づくり
・幸せコミュニティ指標の策定と、指標向上へのロードマップ作成　【指標の見極め・関係者合意】
・地域企業への「九州企業ジェンダーギャップ指数」導入推進　【ギャップ指数導入企業300社】

【戦略３】みらいへの投資（基盤整備）

分散型広域連携

★「九州スマートリージョン構想（仮称）」の具現化
①広域データ連携：構想実現への理念・方針の策定　【九州スマートリージョンポリシー策定】
広域データ連携基盤の仕組みづくり　【パイロットプロジェクト立案】
県境・分野を越えたデータ利活用事例の共有（域内の官民データ拡充）
②広域経済圏モデル（新たな広域行政）の課題・方向性整理　【目指す広域連携の姿の具体化】

○ICT人材育成、サイバーセキュリティ対策・啓発（継続実施）

★九州版MaaS構築と地域交通の最適化
①九州版MaaS：最適な手法を検討するための研究会の設置　【グランドデザイン策定】
②地域交通の最適化：自治体と事業者とのマッチング支援、課題解決の事例創出

○西九州新幹線/効果最大化への検証、空港活性化策の検討、関門連携施策の確立 等

【総務広報部　岡】

ジェンダー・社会構造・自治体連携の３つの視点から脱アンフェアを考える
KYUSHU NEXT 2021　～われわれはどうやって九州を動かしていくのか～

と　き　２月21日（月）
ところ　Web開催（九経連会議室より配信）
出席者　67名

ダイバーシティ「幸せコミュニティ」推進委員会

2018年から開催しているKYUSHU NEXTは、どうやって九州を動かしていくのかを参加者全員で議論する経済フォーラムである。今回は多種多様な意見の集積を目的に、３つのプレゼンテーションを基に、オンラインによるグループディスカッションを行った。



■セッション１
「女性活躍は『女性活躍推進法』ですすんだのか」
プレゼンター　「WE-Nextの会」
髙山 健司・西部ガスホールディングス㈱
取締役常務執行役員
佐々木 圭子・九州産業大学
男女共同参画推進室 室長

【プレゼンテーション概要】

2016年の女性活躍推進法以降の成果は、効果を実感するには道半ばであり、多様性の力を経営に取り入れるには至っていない。

女性活躍スピードアップの施策として、経営における「ジェンダー主流化」を提案する。ジェンダー主流化とは、人事だけでなく、あらゆる政策（ビジネスにおける事業の活動全て）において、男女平等の視点があるか検証し評価するプロセスであり、男性にとって不利な状況改善も含まれる。またジェンダー主流化の加速は、非財務情報を重視するビジネスの潮流と重なる。

■セッション２
「社会の協力によるフェアなビジネス環境」
プレゼンター　加納 ひろみ・
KIGURUMI. BIZ㈱ 代表取締役

【プレゼンテーション概要】

「平等は幸福ではない」という観点のもと、与える側ではなく受け取る側の幸せの量を重視することが重要である。企業の場合、従業員それぞれにオーダーメイドの働き方をしてもらうことは大変面倒である一方で、従業員のパフォーマンスが上がることは結果として企業のプラスである。

経済におけるアンフェアとして、買う意思決定権の多くは女性に委ねられている一方で、世界の企業や政府の調達に対して女性起業家が販売する割合は１％にも満たない現状がある。個人でも企業でも、購買行動の際に意識して女性が提供しているモノやサービスを選ぶことが女性を取り巻くアンフェアなビジネス環境の改善につながるのではないか。

■セッション３
「九州スマートリージョン構想（仮称）」～オープンデータによる自治体の枠を超えた地域連携～
プレゼンター　石丸 修平・福岡地域戦略推進協議会（Fukuoka D.C.）事務局長

【プレゼンテーション概要】

少子高齢化による既存の行政システムの限界や、首都圏への一極集中リスクの顕在化、都道府県をまたぐ行政課題の複雑化などが問題となる中、これらを自治体同士のデータ連携で解決できないか。現在基礎自治体ごとに進めているスマートシティ化を、地域性は残しつつも汎用性を担保し、全体最適を図れる広域連携にすることで、特に「防災」「モビリティ」「エネルギー」「医療」「行政サービス」などの分野で効果が期待できる。スマートシティというとソリューションに目が行きがちだが、ユーザーである住人の幸福度を重視し、都市レベルで評価する取り組みが世界的な潮流であり、それによりこれまで可視化されてこなかったアンフェアが数値化される。

※議論内容の詳細は九経連HPを参照

【地域政策部　時里】

ダイバーシティ・インクルージョン（D＆I）の必要性やその意義とは

と　き　3月17日（木）
ところ　福岡市・ホテルオークラ福岡
出席者　9名

福岡県女性活躍実践会議と九経連会長による意見交換

本会 倉富純男会長と福岡県女性活躍実践会議 大曲昭恵座長（福岡県副知事）は、「女性活躍をはじめとする多様な人材の活躍」をキーワードに女性活躍が進まない要因やその解消、「D＆I実現」に向けた企業経営の重要な視点に関して対談した。

冒頭、両トップの挨拶後、「D＆I」の必要性や意義などについて、九経連実施のアンケート結果などを基に、大曲昭恵副知事から倉富純男会長への質問形式により意見交換が行われた。主な内容は下記のとおりである。

1．女性活躍・「D＆I」は時代の要請

－現在の社会は変化が激しく、不確実な時代である。その時代に女性を含めた多様な人材の視点や意見、発想が企業の大きな経営戦略の一つとなると思うが、その点について伺いたい。【大曲副知事】

○今、マーケット自体も多様化する中で単一ではなく、多様な考え方を取り入れ、お客様に応えていく必要がある。女性を含めた多様な人材が集まり、相互に認め合い、力を発揮することで次のステージに邁進する。この流れが「D＆I」である。しかし、この取り組みには時間を要する。【倉富会長】

2．ジェンダーギャップとその解消の取り組み

⑴女性にフォーカスした取り組みと育休取得

－女性の活躍推進は意識面と環境面の両面を整える必要がある。アンケート結果より女性が働く環境づくりの視点は進むが、管理職の女性人材育成への意識・啓発、トップのコミットメントなどが進んでいないという現状をどう思われるか。【大曲副知事】

○企業の制度（育休など）を充実し、利用するという意識は良い流れである。しかし、さらに浸透するにはトップのコミットメントが必要である。企業の経営者・管理職が制度に対する考え方を変え、デジタルを活用しながら、同じベクトルで仕事ができるように伝え、普及していくことが一番大事で根本的なことである。【倉富会長】



⑵従業員の処遇における性差について

－根強く残るアンコンシャス・バイアス解消として、意識や企業風土改革をどのように進めればよいか。【大曲副知事】

○解消には男女、特に若手ができる範囲で改革を実施し、その積み重ねを成果につなげることが重要である。【倉富会長】

⑶経営の意思決定に関わる女性を増やす

－経営層へステップアップするのに女性が身に付けること、経営陣がサポートするべきことは何か。【同席した実践会議メンバーの濱砂圭子㈱フラウ社長（本会会員）】

○リーダーシップ、やり抜く力、多様な考えを受け入れる寛容さ、そして相互に尊敬し合う気持ちを持つことである。【倉富会長】

⑷会員企業へのメッセージ

○今後ますます少子高齢化が加速する中、多様な人材が活躍する時代が来る。この流れを九経連としても会員企業と共に取り組み、九州全域に広げ、官民の連携で九州の「幸せコミュニティ」実現に向けて邁進していきたい。【倉富会長】

【地域政策部　田中】

日誌 3月

1日（火） [福岡市・九経連会議室（Web併催）]
行財政委員会第３回企画部会
出席者：11名

九州が目指す広域連携の方向性について、石丸修平部会長（福岡地域戦略推進協議会事務局長）を座長とするWGでこれまで７回にわたって議論・検討してきた内容を報告するとともに、今後の進め方について説明を行った。これに対し、スマートシティを実装した各自治体が連携できるモデルの構築が必要、オープンデータ活用による防災への取り組みが有効等の意見が出された。

続いて、2022年度事業計画案では、広域連携についてデジタル推進部会との協働で取り組んでいくこと、国際金融機能誘致やスーパーシティ構想の実現に向けた検討を進めていくこと等を説明し、意見交換を行った。

1日（火） [Web開催]
産業振興・デジタル推進委員会第２回デジタル推進部会
出席者：32名

新型コロナウイルス感染拡大防止のためWebにて開催した。本田健一部会長（九州電力㈱情報通信本部電子通信部長）の挨拶の後、2021年度の事業計画に基づき、九州AIビッグデータコンソーシアムの創設、サイバーセキュリティ対策の普及啓発、DX推進等による生産性向上に向けた取り組み支援、産業振興に資するICT人材育成事業等、活動実績について報告を行った。

その後、2022年度事業計画案を説明。重点事業とする「地域企業へのDX支援」「広域データ連携基盤」について、行財政委員会や九州DX推進コンソーシアム等との協働を進め、連携して取り組んでいくこととなった。

3日（木） [Web開催]
第３回K.P.C.ウェビナー～日本食材と貿易の現実～
出席者：144名

コロナの状況下、九州とベトナム間の経済交流を進めていく中で、2020年11月にプレオープンした九州プロモーションセンター（KPC）の認知度向上を意識したウェビナーを開催。第３回目となる今回のテーマは「日本食と貿易」。ベトナム国内では中間所得層が牽引役となり、引き続き高い経済成長を維持している。消費拡大等、新たなビジネスチャンスのきっかけ作りを狙いとした。

本会の長尾成美専務理事による挨拶後、JETROハノイ事務所より「ベトナム国内での日本食の受入及び今後の見通し」と題してご講演いただいた。その後、ベトナムで日本食の商材を扱っている卸売業、小売業、外食業の方々に加え、貿易を行う際に必要不可欠である物流業の方にご登壇いただき、パネルディスカッションを実施。それぞれの立場からご意見をいただいた。

4日（金） [Web開催]
第２回再生可能エネルギー産業化推進委員会
出席者：31名

第１回に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のためWebにて開催した。

安浦寛人委員長（九州大学名誉教授）の挨拶の後、経済産業省資源エネルギー庁の藤森慎太郎総務課総括係長より「第６次エネルギー基本計画について」と題してご講演いただき、質疑応答、意見交換を行った。その後、議事に入り、委員会および各実務者会議（地熱・温泉熱、海洋、水素エネルギー）の2021年度下期活動状況と2022年度活動計画等について審議した。

7日（月） [Web開催]
第18回種子島ロケットコンテスト大会
参加者：67チーム

2020年度と同様にオンライン開催とした今大会では、全国から67チームが参加し、２部門計７種目でのプレゼンコンテストを実施した。各チームからは、独創的なアイデアに基づき設計した機体や技術的に高度なチャレンジへの取り組み、独自で行った試験結果等、積極的な活動の成果が発表された。

併せて行った講演会では、JAXA射場技術開発ユニットの高坂政臣氏より「H-IIA／イプシロンロケットの追跡管制業務について」と題して貴重なお話をいただいた。最後に、各種目の上位チームについて表彰を行った。コロナ禍で活動に制限がある中でも機体開発に取り組んできた各チームにとって、貴重な活動発表の機会と交流の場となった。

8日（火） [福岡市・九経連会議室]
交通委員会第２回企画部会
出席者：20名

清水信彦部会長（西日本鉄道㈱専務執行役員）による開会挨拶の後、九州旅客鉄道㈱の木下貴友モビリティサービス推進室長と西日本鉄道㈱の阿部政貴まちづくり・交通・観光推進部課長より「地域と一体となったモビリティサービス・MaaSの取り組み」と題し、九州の交通を取り巻く環境、北九州市や宮崎県におけるMaaSの取り組みや九州内の展開状況、また、今後の課題等についてご講演いただいた。

議事では、2021年度活動報告と2022年度事業計画案の内容説明を行った。

9日（水） [福岡市・ホテルオークラ福岡]
第72回九州経済懇談会（経団連との懇談会）
出席者：195名

本会は３年ぶりに（一社）日本経済団体連合会（経団連、十倉雅和会長）との懇談会「九州経済懇談会」を開催。経団連からは十倉会長、古賀信行審議員会議長をはじめ副会長12名、本会からは倉富純男会長、副会長７名をはじめ会員約160名が参加し、「変革の風を九州から～ローカルアドバンテージを活かして～」を基本テーマに意見交換を行った。 ※次号（６月号）にて詳細を掲載予定

9日（水） [Web開催]
ASEAN展開支援ウェビナー
出席者：127名

現地最新情報を提供することにより、企業の海外展開を支援することを目的に本ウェビナーを開催した。

JICAから「アフターコロナにおけるASEAN主要国の社会・経済の見通しとJICAの取組み」、明倫国際法律事務

所と西村あさひ法律事務所からは「ASEAN主要国での海外取引における、外資規制等の現地法律上の留意点」のテーマで、最近の主な法改正情報や現地で陥りやすい法律上の失敗事例に関する各国の特徴などについて解説いただいた。

幅広い業態から聴講いただき、アフターコロナの海外展開に関心が高いことがうかがわれるウェビナーとなった。

11日（金）［福岡市・九経連会議室（Web併催）］

行財政委員会

出席者：25名

村上英之委員長（㈱西日本シティ銀行頭取）の挨拶の後、2021年度の主要事業である、広域連携の方向性に関するWGの検討状況や、国際金融機能の誘致に向けTEAM FUKUOKAと共催した国際金融勉強会について事務局が報告を行った。続く2022年度事業計画案では、九州地域戦略会議への提案に向けた広域連携の促進、産業振興・デジタル推進委員会との協働による広域データ連携の推進、都市機能の充実や高度化を目指す構想の実現等に取り組むことを確認した。

その後、㈱日本総合研究所の東博暢氏より「スマートシティ推進による新たな地方創生戦略」、東京海上日動火災保険㈱の平山寧氏より「地域を守る防災スタンダード案」と題してご講演いただき、今後の広域連携の取り組み推進にあたり大変参考になる話を伺った。

※次号（６月号）にて講演要旨を掲載予定

15日（火）［福岡市・九経連会議室（Web併催）］

第２回農林水産委員会

出席者：42名

平野亘也委員長（㈱宮崎銀行会長）の開会挨拶の後、2021年度活動実績の報告に続き、農林中央金庫、JA全農ふくれんとの三者連携協定による取り組み等を織り込んだ2022年度活動計画案、また、実効性・農政の後押し・優先度等の観点から訴求力向上にフォーカスした国への要望案について、それぞれ審議が行われ承認された。

その後の講演では、最初に西南学院大学教授で東京大学名誉教授の本間正義氏より「日本の農業・食料産業の活性化に向けて」、次に㈱誠和の大出浩睦社長と佐賀市バイオマス産業推進課の前田修二主査より「産業連関による脱炭素推進と農業の生産性向上の事例紹介」と題してお話しいただき、活発な意見交換が行われた。

16日（水）［福岡市・九経連会議室（Web併催）］

「KYUSHU NEXT」第３回WG

出席者：14名

２月21日に開催した「KYUSHU NEXT 2021」の総括と、今後の展開について話し合った。「KYUSHU NEXT 2021」では参加者全員に発言の機会があったことで、多種多様な意見の集約を図ることができた。一方で委員からは、議論テーマの設定を工夫することでさらによい議論になるとの意見が出された。

2022年度は、今回集約した議論内容を九州地域戦略会議夏季セミナーに反映させる予定であり、より発展的な議論を展開すべく準備を進めていく。

16日（水）［福岡市・電気ビル共創館（Web併催）］

産業振興・デジタル推進委員会

出席者：91名

昨年６月に産業振興および情報通信の両委員会が統合され、産業振興・デジタル推進委員会としての初回開催となった。産業振興部会・デジタル推進部会の2021年度事業報告・2022年度事業計画案について、それぞれ審議が行われ承認された。2022年度の取り組みについては、DXおよびGX（GI）を融合した形で次世代リーディング産業を育成・振興するとともに、広域データ連携基盤の構築等に注力することとなった。また、産学官連携による課題解決型先進モデル創出、九州ベンチャー・エコシステムの構築、生産性・付加価値向上、データ利活用社会に向けた基盤整備等の継続テーマに取り組むこととなった。

続く講演会では、ローカル５Ｇ実用化の現状および今後について、NTTビジネスソリューションズ㈱、日本電気㈱両社からご説明いただいた。委員会・講演会を通じて、活発な審議・質疑が行われた。

※７月号にて講演要旨を掲載予定

16日（水）［福岡市・福岡国際会議場（Web併催）］

資源エネルギー・環境委員会／九州カーボンニュートラル経営推進セミナー

出席者：55名／210名

前半の資源エネルギー・環境委員会では2021年度事業報告ならびに2022年度事業計画案の審議が行われ、全会一致で承認された。

後半の九州カーボンニュートラル経営推進セミナー（主催：経済産業省九州経済産業局、九経連、共催：九州環境エネルギー産業推進機構、協力：九州商工会議所連合会）では、後藤雄三九州経済産業局長と瓜生道明委員長による開会挨拶の後、三浦工業㈱の宮内大介社長より脱炭素経営に関する講演をいただいた。続いて、㈱ウエルクリエイトの松尾康志会長からサーキュラーエコノミー、㈱chaintopeの正田英樹CEOからGXに関する事例発表をいただいた。

17日（木）［福岡市・ホテルオークラ福岡］

福岡県女性活躍実践会議と九経連会長による意見交換

※本誌５ページ「活動報告」に詳細を掲載

17日（木）［宮崎市・ニューウェルシティ宮崎］

宮崎地域委員会女性活躍推進セミナー

出席者：37名

女性活躍推進をテーマにセミナーを開催した。冒頭、平野亘也委員長（㈱宮崎銀行会長）が挨拶し、「女性をはじめ多様な人材の活用は、新たなマーケットの創出や企業価値の向上につながる。当セミナー参加の方々にはその先頭に立っていただきたい」と述べた。次に、九経連事務局から「九州ジェンダーギャップ指数策定と2021年度結果」について報告を行った。

その後、㈱岩田屋三越の曽根ゆかり新規創造営業部長より「チームの創造性を高めるには」と題し、組織における女性登用の在り方や、リーダーシップの発揮等についてお話しいただき、意見交換を行った。

DIARY

18日（金）［福岡市・九経連会議室（Web併催）］
ダイバーシティ「幸せコミュニティ」推進委員会
出席者：25名

2021年度事業報告および2022年度事業計画案についてそれぞれ審議の上、ご承認いただいた。また2021年度事業の詳細報告として、事務局から「九州ジェンダーギャップ指数」「KYUSHU NEXT 2021」の結果報告、参考報告として幸せコミュニティ指標の策定状況を説明した。

九経連自らが強い信念を持ち、率先して女性活躍に取り組む姿勢を外部に示すことの意義、また九州を全ての人が幸せを感じられるコミュニティにする必要性など、前向きな意見交換が行われた。

19日（土）［鹿児島市・mark MEIZAN（Web併催）］
鹿福（KABUKU）2022
出席者：30名

鹿児島と福岡のリソースを掛け合わせて、地方創生、DX推進、新規事業の拡大を目指す「鹿福2022」が開催された（主催：鹿児島市、マークメイザン、共催：九経連）。

当日は下鶴隆央鹿児島市長の開会挨拶の後、㈱バカンの河野剛進社長、有限責任監査法人トーマツの香月稔地域未来創造室九州地区リーダー、㈱リリーの野崎弘幸CEOによる特別講演、鹿児島代表スタートアップ㈱スディックスバイオテック、ファーマーズサポート㈱、Buddycare㈱）によるピッチが行われ、鹿児島エコシステムと福岡エコシステムをつなぐ貴重な機会となった。

22日（火）［Web開催］
九州航空宇宙開発推進協議会第２回幹事会
出席者：29名

各推進プロジェクトについて、2021年度の活動状況をそれぞれ報告するとともに、これまでの活動に関する総括を行った。

また、2022年４月に九航協が30周年を迎えることを契機に、2021年度８月から２月にかけて第３次企画委員会を設置し、九航協の今後取り組むべき事業について検討を行ってきた結果を委員長より報告した。企画委員会にて取りまとめた第３次アクションプランの説明に対し、幹事からは、実動に向けて検討を深める必要のある事項について意見が出された。本アクションプランは2022年度予算案、事業計画案へ反映し、５月に開催する2022年度第１回幹事会にて審議する。

23日（水）［福岡市・ホテルニューオータニ博多］
第168回理事会
※本誌２～３ページ「活動報告」に詳細を掲載

24日（木）［福岡市・九経連会議室］
観光委員会企画部会
出席者：24名

桂原耕一部会長（㈱JTB執行役員九州エリア広域代表）の挨拶の後、事務局から2021年度の事業総括および2022年度事業計画案について説明を行った。2022年度は主に、観光を軸あるいは起点にした「ポストコロナ時代の街づくり」を九経連のリソースを使ってサポートし、その事例を水平展開していく。その他にも「ツール・ド・九州2023」の成功に向けた関係団体との連携や「九州・長崎IR誘致」へのサポート活動を実施する。

議事終了後には、回復しつつある旅行需要を人手不足によって受け入れることができない宿泊事業者等サービス業の実態とその解決法について、活発な意見交換が行われた。

24日（木）、25日（金）［鹿児島市・鹿児島県庁、相良病院］
九州女性の会３月例会（視察会）
出席者：９名

今回は２日間の行程で鹿児島市を訪問した。初日は塩田康一鹿児島県知事を表敬訪問し、九州女性の会の取り組みを紹介。続いて鹿児島県女性活躍推進会議の門田晶子会長（合同会社Go!Kagoshima代表）と同会議女性ワーキンググループの長利京美アドバイザー（㈱新日本科学上席執行役員総務人事本部長）を訪問し、同県の女性活躍を含むジェンダー平等推進の取り組みについて説明を受け、意見交換を行った。

翌日は乳がん治療で日本トップレベルを誇る相良病院を訪問し、2020年７月に完成した新病院の視察を行った後、相良安昭院長より概要説明を受けた。

25日（金）［大分市・トキハ会館］
大分地域委員会ダイバーシティセミナー
出席者：40名

ダイバーシティをテーマにセミナーを開催した。冒頭、梅林秀伍副委員長（梅林建設㈱社長）が挨拶し、「人手不足、後継者不在といった社会問題において、多様な人材の確保・活躍は喫緊の課題である。ダイバーシティの理解を深め、経営やマネジメントに役立てていただきたい」と述べた。次に、九経連事務局から「九州ジェンダーギャップ指数策定と2021年度結果」について報告を行った。

その後、西部ガスホールディングス㈱の初村清香人財戦略部キャリア開発グループマネジャーより、企業の持続的発展に向けた「ダイバーシティ推進と働き方改革」についてご講演いただいた。最後に、和仁寛幹事（九州電力㈱執行役員大分支店長）が閉会の挨拶を行い締め括った。

30日（水）［福岡市・九経連会議室（Web併催）］
農林水産委員会林業部会第２回モクビル研究会
出席者：75名

本研究会は、国産材の消費拡大につながる木造ビルの早期実現に向け、「ターゲット領域の明確化」「各県ごとの標準モデルの共通化」「SCM全体の最適化」等諸課題を洗い出し、集合知を形成することを目的としている。

各県リーダーによる事例発表に加え、木造建築に豊富な知見がある腰原幹雄教授（東京大学）・安井昇一級建築士（桜設計集団）の講演や、「伸びゆく木造ビルの課題と対策」と題したパネルディスカッションにおける両氏の指摘を通して、取り組むべき課題が輪郭を現し対応の方向性が確認された。今後は、木材の生産・流通に係るSCM全体のポートフォリオ分析を行うなど、研究会メンバー自らの積極的な参加がポイントとなる。

講演要旨

地域的な包括経済連携（RCEP）協定の概要について

（2022年２月８日（火）国際委員会での講演）



経済産業省 通商政策局 経済連携課
経済連携推進専門官
柴　多佳彦

RCEPの概要と九州への影響

約８年間にわたる交渉を経て、本年１月１日に日本・豪州をはじめとする10カ国の間で発効したRCEP協定（参加総数は15カ国、韓国・マレーシア他はその後順次発効）。域内の経済規模が人口・GDP・貿易総額（輸出）のいずれも世界全体の約３割を占める大規模なものとなるが、さまざまな意義ある中でも日本にとっての最も大きなインパクトは、中国・韓国との間の初めての経済連携協定であること。

この２カ国との間での関税削減・撤廃の成果は、例えば中国から見た対日無税品目の割合が発効前の８％から最終的には86％に、韓国で言えば19％から92％へと上昇し、いわゆるゼロ関税となる。

日本から中国への自動車部品・鉄鋼・家電の輸出、韓国向けではこれらに加えて液晶ディスプレイ用の保護フィルムといった化学製品他の輸出がこの恩恵を受けることとなるが、これらの品目は九州地域からの輸出品の中でも代表的なもの。

ちなみに、これと比べて日本からASEAN・豪州・NZへの輸出に関しては、既にASEANの国々との２国間EPAやCPTPPといった既決EPAがあり、RCEPによっての上積みはわずかなものとなった。また、参加各国からの工業製品の輸入に関しては、相手国・地域によっては関税削減・撤廃の対象となる品目とならないものとがあることにも留意が必要。

なお、九州の強みでもある農林水産品・酒類に関しても順次関税が撤廃され、アジア市場への輸出促進効果が期待されるところ、日本全体で見た「守り」の観点では重要５品目（米、麦、肉類、乳製品、糖類）は対象から除外されるなど、日本側の農林水産品の関税削減・撤廃率は他の経済連携協定に比べても低い水準に抑えられている。

さらに、関税低減のメリットを享受するためにクリアする必要がある原産地規則・原産地証明の手続きについても、比較的低いハードルであることも特徴の一つ。

恐らく九州の事業者にとっても関心が高いと思われる中国・韓国の税関における実際の運用に関しては経済産業省としても今後注視したいが、今のところ目立ったトラブル等は聞かれていない。現時点での中国における運用法令の情報は、下記JETROのURLを参照されたい。
https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/01/8631ff516dd37a14.html

新たなルールの制定

今回のRCEPでは、特に中国との関係においてこれまでに無かったルールをいくつか定めた。

このうち、投資ルールの強化に関する一つが「技術移転要求」の禁止。これは、例えば日系企業が現地に工場の建設を申請した際に、許認可の交換条件として当該企業が有する独自技術に関する資料の提出を求めるような行為がこれまで散見されるが、これを禁止するもの。また一つには「ロイヤリティ規制」の禁止。例えば日本企業がRCEP参加国企業との間に現地での製品製造ライセンス契約を締結する際に、当事者間の私契約では５％のロイヤリティ（特許権・商標権・著作権等の使用料）支払いで合意していたところを、現地政府の介入により３％の低い率に抑えられてしまったといった事案、これらを排除するもの。

電子商取引の分野では、データ・ローカライゼーション（コンピュータ関連設備〔例：サーバー等〕を自国の領域内に強制的に設置すること）を要求してはならない、データ・フリーフロー（事業実施のために行われる情報の電子的手段による越境移転、例えば日本の本社へのメンテナンスデータの送信等）を妨げてはならない、といったルールも新たに制定された。

このほか、知的財産権の分野では、例えば著作侵害物等の輸入を税関で察知した時点で当局が職権により差し止め、場合によっては破壊命令を発することができるようになり、通関手続の円滑化と透明性向上の分野では、「必要な情報が全て提出されたら48時間以内に通関を許可する」「急ぎの貨物は６時間以内に引き取りの許可を行う」といった、“可能な限り”との努力義務ではあるが数字をもって規定したところに一定の意義がある。

今後の運用とお願い

以上掻い摘んでの説明となったが、経済連携協定とは署名・発効で終わりとなるものではなく、参加各国における今後の履行体制のモニタリングが何よりも肝要。このために、RCEP閣僚会議（各国の担当大臣レベルの会議）、RCEP合同委員会（いわゆる事務方省庁による会合）は原則として毎年開催されることとなり、その下には各種委員会が設置されている。これに今回初めての設置となる、独立した専門性・実効性のあるRCEP事務局による支援等を絡めたところで監視機能を担保したところがポイント。

膨大な資源を費やして発効に至った既存の経済連携協定に加えて今回の新たなRCEP、皆様にはぜひとも積極的に活用していただきたい。そのうえで、改善すべきは速やかに改善するためにも、お気付きの点があれば政府・経済産業省にぜひともご意見・情報をお寄せ願いたい。

なお、本日の講演の内容は下記URLに詳しくあり、ダウンロードが可能。
https://www.jetro.go.jp/ext_images/theme/wto-fta/rcep/rcep.pdf

講演要旨

女性の力・アイデアを生かした地域農業活性化
～農業女子プロジェクトの取り組み～

（2022年２月17日（木）農林水産委員会第２回企画部会での講演）

福岡農業女子グループ
「Happy Farming
～いいっちゃない福岡」代表
星野　純子

島根県出身。農家の夫との結婚を機に福岡で農業に関わる。個人事業主として社員やパートの人たちと米や野菜を栽培、グループの第２期の代表を務める。



福岡農業女子グループの紹介

「Happy Farming～いいっちゃない福岡」（通称：はぴふぁむ）は、女性の力で農業を盛り上げようと、農林水産省が推進する「農業女子プロジェクト」メンバーを中心に結成した福岡県内の女性農業者が集うグループです。農業女子プロジェクトは、女性農業者の存在感を高め、就農する若手女性を増やすことを目的に、同省が2013年に設立。女性農業者が日々の生活や仕事、自然との関わりの中で培った知恵をさまざまな企業の技術・ノウハウ・アイデアなどと結び付け、新たな商品やサービス、情報を創造し、社会に広く発信していくためのプロジェクトです。

「はぴふぁむ」は、2018年に発足し、現在20代から70代までの19人が所属しています。メンバーの販路はさまざまであり、１農家１販路とは限りません。最も多いのは委託販売（産直売り場・ネット販売）で29％、次に直接販売（発送・配達）21％、JA・部会等17％等となっています。私たちは、グループ名の由来でもある「農業女性をHAPPYに」をモットーに、企業や大学、行政等とのつながりを広げながら明るく活動しています。

企業との連携

プロジェクト趣旨に賛同した企業との連携活動では、農業女子の持つ「生産力」「知恵力」「市場力」の３つのチカラを活かし、新たな商品やサービス、情報等の開発を行っています。「生産力」では、パナソニック㈱（福岡市博多区）様で休憩時間に出張マルシェを開催し、社員向けに野菜を販売しました。「知恵力」では、農業女子を一つのブランドとして、メンバーの圃場で農作物の作り方を教えるバスツアー（筑後エリア）を組んだことがあります。「市場力」では、農業女子としての新市場をつくることで、㈱東和コーポレーション（福岡県久留米市）様との共同開発でインナー手袋を作っています。

こうした活動を通して、農業女子という言葉の定着や企業との取り組みのビジネス化、生産物の高付加価値化に取り組んでいます。

学生とのコラボ

将来に農業を選択する若い女性を増やすため、農業を志す学生の発掘や動機付け、意識向上にも取り組んでいます。2020年に西日本鉄道㈱様の社員寮を日中借りて、加工品の６次産業をしているメンバーを集め、そこに九州農政局の方や中村学園大学の学生と共に加工品試食会を開催しました。これがご縁で中村学園大学の栄養学を学ぶ学生とのつながりができました。また、福岡市内で開かれた地産地消フェアに出店した時の農産品販売等のお手伝いや、コロナが流行る中では、野外の農業女子圃場で勉強会への参加など、リアルな学びを提供しながら、活動をサポートしてもらっています。

無理なく楽しく活動する

メンバーは県内各地に散らばっていて、一堂に会するのはなかなか難しいため、オンラインを駆使し、北九州地区や大牟田地区などの各地域に分かれて活動しています。あくまでも仕事や生活を第一に、無理せず楽しく続けていくことが大切です。だからサブのグループ名は「いいっちゃない福岡」で、自由に柔軟にできる範囲でやっていこうという思いを込めています。

若手の女性にはいつもこう話しています。「農業女子プロジェクトや福岡県版の農業女子“はぴふぁむ”に入って、さまざまなつながり・活動を通じて、人脈や自分の経営の幅を厚くしてほしい」と。農業は地域との関わり方が絶対に大事です。はぴふぁむは、今の明るく楽しい雰囲気を保ちつつ、時代の変化に対応しながら活動を続けて、福岡の農業を盛り上げていきます。

関連団体等

女性がリードするビジネスと社会の変革「WE-Nextの会」

九経連では、女性活躍の動きを全九州に広げていくべく活動していますが、今回は福岡県の「WE-Nextの会」をご紹介します。

1．女性がリードするビジネスと社会の変革「WE-Nextの会」とは？

WE-Nextの会は、2021年に九経連がビジョン実現に向けて整理した課題「共助社会を実現するダイバーシティ・インクルージョンコミュニティ形成」について重点的に取り組むべく、九経連とアライアンスを締結し、女性活躍や多様性のある社会づくりに関するイベントの開催、ワーキング等で協働しています。

同会の前身は2013年に誕生した「女性の大活躍推進福岡県会議」です。麻生渡元福岡県知事のリーダーシップの下、福岡の活性化のために女性活躍は不可欠であるとの思いを持ったビジネスリーダーが集結。女性の登用目標をトップが宣言する「自主宣言目標」や、後述する女性管理職ネットワーク等の活動は全国から注目を集め、女性活躍を志す運動体が全国的に広まるきっかけとなりました。

2021年より名称・体制を新たに、ジェンダー平等や多様性等を視野に入れた次なる活動フェーズを展開。クラウドファンディングや賛助会員企業の寄付、県内の女性管理職、経営者、担当者のボランタリーな力添えで活動を継続しています。

2．約300名の福岡県女性管理職ネットワーク「WE-Net福岡」

WE-Nextの会の代表的な活動が女性管理職ネットワークです。2021年度は九州圏内企業から８期生26名がジェンダー平等や多様性の視点でビジネスや社会の課題解決に取り組み、その成果を発信しました（以下３テーマ）。2022年度も新たに24名が参加し、９期の活動をスタートしています。

参加者からは「当初は女性だけが集まることに違和感があったが、社会課題という視点でジェンダー問題を探究し多くの気付きを得られた」「ワーキングチームはインクルージョンそのもの。このつながりは財産」との声も。修了生にはこの活動をきっかけに大学等のセミナーに登壇して次世代のエンパワーを熱心に行ったり、地元の経営者とダイバーシティ経営について対話するイベントを開催したり、組織を超えて活躍するメンバーも複数みられます。

【WE-Net福岡８期ワーキングテーマ】

テーマ１　「女性の貧困」
テーマ２　「多様なメンバーを活かすチーム作り」
テーマ３　「自己肯定感の克服」



WE-Net 福岡８期第４回定例会の様子

3．女性の活躍推進は地域の未来への投資

企業に対する人的資本の情報開示要請や、サプライチェーン内では人権や多様性、ジェンダー平等に力を入れる組織と優先的に取引しようとする潮流がみられます。こうした状況から弊会は、九経連と共に「女性の活躍はビジネスや経済の成長に欠かせない」「ジェンダー平等社会は男性にも豊かさをもたらす。つまりすべての人がこの活動の当事者である」という点を地域に発信し、経済的発展とウェルビーイングが両立できる社会づくりに寄与したいと考えます。ぜひ会員の皆様方の継続的なお力添え、ご参加をお願い申し上げます。

〈『WE-Nextの会』概要〉

代表：高見 真智子（㈱サイズラーニング代表取締役）
副代表：髙山 健司（西部ガスホールディングス㈱取締役）
設立：2013年（2021年より現名称）
福岡市中央区大濠公園2-35-902号
URL：https://we-next.jp
賛助企業会員年会費：20,000円

Member Introduction
会員紹介

MECHATRAX

<2020年８月24日入会>

法人紹介

ラズベリーパイ（Raspberry Pi）をご存じでしょうか？普通は果物（ラズベリー）を載せた焼き菓子（パイ）を想像されると思いますが、一度「ラズベリーパイ」という言葉でネット検索してみてください。検索結果は、よく分からない電子回路基板で埋め尽くされて困惑するはずです（苦笑）。

実は昨今ＩＴ分野で注目を集めているのが、このラズベリーパイ、通称「ラズパイ」です。ラズパイはケンブリッジ大学で2012年に開発された子供向けコンピュータで、発売開始から全世界で累計4,000万台以上が販売されています。極めて低価格（1,000～9,000円）ながら性能も高く、現在では本来の教育用途だけでなく設備監視などさまざまな分野で使用されています。

弊社は2014年に国内初のラズパイ用３Ｇ通信モジュールを製品化し、以後ラズパイ関連事業の先駆者として、大学や自動車メーカ等の大企業などさまざまな顧客に製品やサービスを提供しています。工場の設備監視やビニールハウスの環境モニタリング、河川の水位監視などさまざまなプロジェクトを手掛けていますが、製造や販売はパートナー様と協業し、人員10名に満たない弊社は研究開発に特化して事業を進めています。

ＩｏＴやＡＩなど、変化が早く先も見通しづらい分野では、安価で手軽に導入可能なラズパイが積極的に活用されており、これからもこの傾向は続いていくと思われます。

メカトラックスは、今後もラズパイ向け製品やサービスを拡充し、九州の地から国内外の情報通信市場の活性化と情報化社会の進展に貢献してまいります。

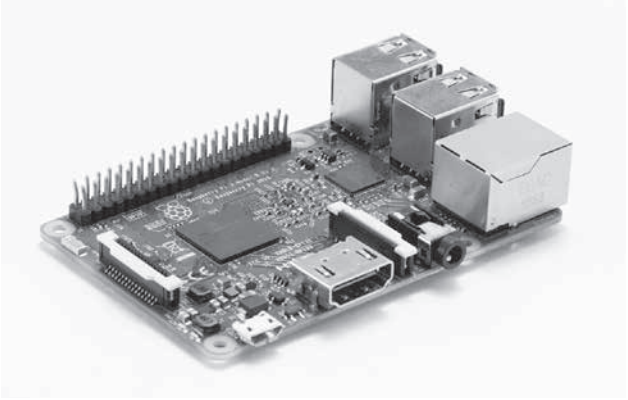
法人概要

法人名	メカトラックス株式会社
創業	2005年12月28日
代表者	代表取締役　永里　壮一
事業内容	ラズベリーパイ向け周辺機器の製造／販売、ラズベリーパイ組込機器の受託開発／小ロット製造、他
従業員数	８名
所在地	〒814-0001　福岡市早良区百道浜３-８-33 福岡システムLSＩ総合開発センター６階
電話番号	092-843-9572
ホームページ	https://mechatrax.com/



代表取締役　永里　壮一

弊社は2005年に福岡市早良区百道浜でメカトロニクス機器の研究開発・製品化を目的に創業しました。「メカ（Mecha）」は“mechanical”から派生した機械を意味する言葉、「足跡（Tracks）」は、創業の地である「百道」の由来から（この地域が干潟の頃、人々の“足跡”が交差する様から「百の道」⇒「百道」）、転じて、機械工学や電子工学分野に足跡を残す会社でありたいという我々の願いを込めています。



ラズベリーパイ（Raspberry Pi）本体

Member Introduction
会員紹介

CCI FRANCE JAPON
在日フランス商工会議所

<2021年４月１日入会>

法人紹介

日本で最初の欧州商工会議所である在日フランス商工会議所は、1918年から、日本市場で企業を成功に導くためのさまざまなサービスを提供しています。当会議所は、在外フランス商工会議所（世界中に124商工会議所と34,000企業）のメンバーであり、欧州ビジネス協会（在日欧州商工会議所：24の部門別委員会）のメンバーでもあります。また、当会議所は理事会によって構成され、全国における日仏経済関係の発展に向けて、さまざまな事業に取り組んでいます。

当会議所では、主に以下のサービスを提供しています。

①各種イベントの開催（年間100回程度）
②日仏ビジネスネットワークへのアクセス提供
③日仏ビジネス情報に関する出版物の定期配信（会員企業の広告掲載も可能）
④組織のキャリア開発や採用の手伝いなど人材育成と求人サービス
⑤事業開発に関するビジネスサポート（市場調査、海外進出サポート、ビジネスフォローアップ、パートナーリサーチ、オフィス提供など）

今後は、九州における事業の実現に向けた委員会を立ち上げるなど、フランスの存在感を高める事業に取り組みます。



ガラ・パーティー福岡2021
パーティーが始まる前、会場のロビーで
ネットワーキングを行っている様子

法人概要

法人名	一般社団法人在日フランス商工会議所
設立	1918年
代表者	会頭　ジェローム・シュシャン （ゴディバジャパン株式会社　社長）
事業内容	日本市場で企業を成功に導くためのさまざまなサービスを提供
従業員数	33名
本部所在地	〒103-0023　東京都中央区日本橋本町2-2-2　日本橋本町ＹＳビル２階
【九州デスク】	〒810-0041　福岡市中央区大名2-5-31　福岡市交通局庁舎４階 （公財）福岡観光コンベンションビューロー内
電話番号	03-4500-6505
ホームページ	https://www.ccifj.or.jp/ja.html



九州デスク代表　ヤナ・シャル

在日フランス商工会議所九州デスク代表として、ビジネス関係を増やしていくことが目標ですが、九州には15年前から住んでおり、フランスとの間をより縮め、深い関係を築くことに貢献したく思います。日本におけるフランスへの情熱が年々高まることを機に、あらゆる分野で日仏関係がより一層発展することを願っています。

現在、福岡でさまざまなプロジェクトに取り組んでいる中で、在日フランス商工会議所の福岡ビジネスセンターを開設することに力を入れています。その拠点ができることにより、より多くのフランス企業が福岡に興味を持っていただけると信じています。

Member Introduction
会員紹介

ベトハシ

＜2021年４月１日入会＞

法人紹介

10年ほど前に私が代表を務める別会社にて、技能実習生を雇用するために、ベトナムに渡航しました。そこでベトナム人の温かさや真面目さに感動し、それ以降、毎年のように渡越し雇用した実習生の実家を訪問し、交流を行い、人と人の関係性を深めていく中で、現地企業の社長など、いろいろな方と知り合うことができ、親交を深めてきました。

こうした関係が続く中で、ベトナムへの輸出事業を検討していた知人の依頼を受けて、私がベトナム企業とのパイプ役として業務提携まで支援を行い、事業実施までつなげることができました。この経験がきっかけとなり、私が日本とベトナムの懸け橋となり、さまざまな企業や、人々に対しても役に立てるのではないかと考え「合同会社ベトハシ」を2020年１月に設立しました。そして設立後、すぐに飯塚商工会議所からの委託を受け、地域の商品をベトナムの飲食店で販売する事業を実施することとなりましたが、コロナ感染症の拡大が始まり、渡越することが難しい中で、現地ネットワークを活用し、ネットを使った販売へ形を変えながら事業を終えることができました。

今後、ハノイにある入居予定の九州プロモーションセンター（KPC）に拠点を構え、現地での情報収集、現地企業との交渉の場として活用し、日本企業、ベトナム企業双方のお役に立てる企業を目指してまいります。

法人概要

法人名	**合同会社ベトハシ**
設立	2020年１月27日
代表者	代表社員　橋垣　幸祐
事業内容	ベトナムに特化した貿易会社
従業員数	２名（現地スタッフ３名）
所在地	〒820-0083 福岡県飯塚市秋松402-１
電話番号	0948-55-1184
ホームページ	Betohashi.com



代表社員　橋垣　幸祐

私は、「日本とベトナムの懸け橋に」を企業理念として「合同会社ベトハシ」を設立しました。当社は、日本とベトナムの商材を販売していく中で、これまで築いてきたベトナムとの交流関係をより一層深いものにしていき、日本とベトナムの企業や個人を良好な関係へと導く懸け橋として貢献できるよう日々精進してまいります。



入居予定のKPC

沖縄観光通信

～ミス沖縄がおススメする沖縄観光情報～

(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー (OCVB)



ミス沖縄スカイブルー
翁長愛音

皆さま、はいたーい!ミス沖縄スカイブルーの翁長愛音（おなが えでぃっと）です。
今月から、私たち第40代ミス沖縄が沖縄のおススメ観光スポットなどをご紹介いたしますので、ぜひお楽しみください。
今回は、沖縄本島中部うるま市にある「果報バンタ」をご紹介します。
日々、YouTubeやFacebook、Instagramを通して、沖縄の魅力をお届けしております。ぜひチャンネル登録&いいねをお願いします!

■「ミス沖縄公式YouTubeチャンネル」はこちら https://bit.ly/2Fa1tlW

新型コロナウイルス感染予防・拡大防止に取り組んでいます！

果報（かふう）バンタ

〔沖縄県うるま市与那城宮城2768〕
果報（かふう）バンタは那覇空港から北へ車で１時間。沖縄本島中部エリア、うるま市勝連半島と平安座島をつなぐ海の上の道「海中道路」を通った先、宮城島の“ぬちまーす工場”敷地内にあります。
果報は方言で「幸せ」、バンタは「岬」を意味しており、標高70ｍから景色を楽しむことができます。そこから見えるダイナミックな海の青と、自然豊かな緑の絶景は大変魅力的で、自然のパワーを体全体で感じることができます。
東海岸に面する果報バンタの景色が一番綺麗に見渡せるのは、太陽が真上に上がる11時～13時の間です。また、敷地内にある“ぬちまーす工場”では工場見学の他、カフェでお食事もできますので、絶景を見た後はカフェでゆっくり過ごしてみてはいかがでしょうか。また、私はこのカフェの塩ソフトクリームがとても好きで、訪れた際には必ず食べています。訪れる度に食べたくなる美味しいソフトクリームなので、果報バンタへお越しの際は、ぜひ召し上がってみてください。









今月のおススメ

ゴーヤー



５月８日は語呂合わせで「ゴーヤーの日」です。また、沖縄では５月からゴーヤーの出荷量が増えることからこの日に制定されたともいわれています。
沖縄を代表する食材、ゴーヤーは苦味があることから苦手な方もいらっしゃいます。今回、私がおばーから教えてもらった苦味をなくす方法を皆さまにご紹介いたします。
切ったゴーヤーに塩をまぶし揉み込み30分ほど置き、ゴーヤーがしんなりとしてきたら、冷水で洗い流します。これだけで、苦味が抜け食べやすくなりますので、お子さまがいるご家庭や、ゴーヤーの苦みが苦手な方におススメです。さらに苦味を抜きたい方は、塩もみに加え、熱湯で数分間茹でるとさらに苦みが抜けて食べやすくなりますよ♪
ゴーヤーはミネラル、ビタミンが豊富で夏バテ予防にピッタリです。ご家庭でぜひ、美味しいゴーヤーをお召し上がりください。

ミス沖縄紹介Webページ　https://www.ocvb.or.jp/activities/missOkinawa
も併せてご覧ください。

皆さまへ沖縄の魅力をお届けいたします。

地域動向

九州・山口

山口 Yamaguchi



高度産業人材の確保に向けた奨学金返還補助制度

瀬戸内海沿岸地域に、石油、化学、機械、金属などの重化学工業を中心とした数多くの工場が立地し、全国で唯一、複数のコンビナートが形成されるなど、全国有数の「工業県」である山口県。

この強みをさらに伸ばしていく上で重要となる高度産業人材の確保を図るため、山口県では、2015年度から奨学金返還補助制度を設けている。

この制度は、国や地方公共団体などから奨学金や育英資金などの貸与を受ける理系大学院生および薬学部生を対象とし、その学生が卒業後、県内の製造業や情報サービス業で一定期間就業した場合に、奨学金の返還額の全部または一部を補助するもので、山口県出身者以外の方も利用でき、対象学生には、就職ガイダンスや企業見学会を開催するなど、きめ細かな就活サポートも実施している。

県では、毎年６月頃から、新たな対象者を募集しており、県内外からの積極的な応募を呼び掛けている。また、この制度の運用財源として産業界からの寄付も募っている。山口県の奨学金返還補助制度に関心のある方は、県ＨＰを参照いただく、または下記までお気軽にお問い合わせいただきたい。



周南コンビナート

《問い合わせ先》

山口県産業戦略部総務調整班

TEL：083-933-2465 働くなら山口県 検索

福岡 Fukuoka



使い方の指導も受けられる！福岡県工業技術センター機械電子研究所に「金属３Ｄプリンタ」を導入！

少子高齢化や人口減少の進行、デジタル化の加速などにより、企業を取り巻く環境は刻々と変化している。ものづくり企業においては、デジタル技術を駆使した生産性向上や生産体制の変革を進めることが急務となっている。

これを支援するため、県工業技術センター機械電子研究所に「金属３Ｄプリンタ」を導入した。

「金属３Ｄプリンタ」は、樹脂などで物を造形する「３Ｄプリンタ」の金属版。従来の金属加工技術では実現不可能な複雑形状の金属部品を３Ｄデータから直接製造することが可能で、航空宇宙、自動車、医療分野などへの活用が進んでいる。今回導入した機種は、今ある金型などの改修や改造にも対応でき、導入すれば、破損した部品を一から新たに製造する必要はなく、コストの削減が見込まれる。当研究所では技術的ノウハウをもつ職員が利用指導などの支援も行っている。ぜひ一度来所いただき、「金属３Ｄプリンタ」の利便性やメリットを体感いただきたい。



《問い合わせ先》

福岡県工業技術センター機械電子研究所

生産技術課　TEL：093-691-0260

佐賀 Saga



赤ちゃんの誕生を祝福！佐賀県オリジナル「出生届」

佐賀県では、「子育てし大県“さが”」プロジェクトと題し、出会い・結婚から子育てまで切れ目ない支援を展開している。プロジェクトの一環として、2020年には『ゼクシィ』（株式会社リクルートマーケティングパートナーズ）と協同で県オリジナルのご当地婚姻届を作成、21年には「結婚や家族の良さを伝え、県内で暮らす幸せな家族を増やしたい、佐賀で暮らすすべての人々の幸せを応援したい」という想いを込めたスペシャルムービー「さがウェディングストーリー」を公開した。

今年１月には、佐賀県で生まれてくる赤ちゃんの誕生を祝福したいという想いを込めて、佐賀県オリジナル出生届と命名書を作成。デザインは、バルーンやむつごろう、こいのぼりやひな人形など、佐賀の風物詩や特産品、子どもにまつわる祝い事などをモチーフにしており、柔らかい色合い・雰囲気が魅力。実際に使用した方からは、「かわいい」「郷土愛を感じられる」と好評をいただいている。この出生届は、全国で使用でき、命名書とともに、県内の産婦人科をはじめ、市町の窓口などで配布中。多くの方に使用していただきたい。



佐賀県子育て応援キャラクター「さがっぴぃ」

《問い合わせ先》

佐賀県こども未来課

TEL：0952-25-7381

公式LINE

長崎 Nagasaki



４つの新・ご当地グルメが同時デビュー！

今年３月、長崎県内４つの地域に、本県が誇る注目の地元食材を使用した新・ご当地グルメが同時デビューした。新型コロナウイルス感染症の影響により減少した観光客の回復を図る起爆剤として期待されている。

『平戸ジビエ南蛮カレー』（平戸市）

古くからヨーロッパ諸国との交易で栄えた平戸。さまざまな歴史上の出来事をモチーフに市内４店舗がオリジナルメニューを開発。

『西海シマアジ旨造り膳』（西海市）

西海市は養殖シマアジを一年中安定供給できる「シマアジの町」。活きシマアジと熟成シマアジの刺身食べ比べのほか、フライやステーキなど豪華８点セットの御膳。

『新上五島生マグロ刺身皿』（新上五島町）

県内有数の養殖クロマグロの生産地・新上五島町。一度も冷凍処理していない「生の本マグロ」を使用した税込1,000円のサイドメニュー。各店おすすめの自慢料理とご一緒に。

『宇久島鯛めし』（佐世保市宇久町）

飲食店ではレンコ鯛を３種類の丼で味わう「どんぶり鯛めし」を、旅館ではレンコ鯛の干物の釜飯などを味わえる「しゃぶしゃぶ鯛めし」を提供。ランチと宿泊の両方で鯛めしが楽しめる。



ぜひ多くの方に各地域を訪れていただき、新しいグルメを堪能していただきたい。

《問い合わせ先》

長崎県観光振興課　TEL：095-895-2647

長崎県　新・ご当地グルメ　検索

熊本 Kumamoto



「マンガ県くまもと」構想等について

マンガ・アニメ等コンテンツは世界に誇る日本の文化であり、文化・経済活動において高いポテンシャルを有している。

熊本には、地域ゆかりのマンガやアニメが豊富にあり、県では、これらを活用し、地域を元気にする取り組みを進めている。

例えば、「ONE PIECE熊本復興プロジェクト」では、熊本県出身の原作者のご厚意の下、県内各地に主人公ルフィとその仲間である「麦わらの一味」の像を設置。像を起点とした周遊を促すことで経済波及効果が生まれ、熊本地震からの復興を後押ししている。

また、令和２年７月豪雨で被災した人吉・球磨地域はアニメ「夏目友人帳」のモデル地であることを活かし、コラボ動画の制作や、動画のスポット等を巡るスタンプラリーを実施するなどして、誘客促進や地域活性化につなげている。

このようなマンガ・アニメによる地域の盛り上がりを受け、昨年10月には県内の企業や大学、市町村などで構成する「くまもとマンガ協議会」が発足。連携を密にしながら、地域活性化だけでなく、文化財としてのマンガの保存や研究、漫画家やクリエイターなどの人材育成にも取り組んでいく。

具体的な取り組みとして、令和５年春、県立高森高校に公立高校では全国初となる「マンガ学科」を開設。漫画出版社「㈱コアミックス」や高森町との連携協定に基づき、プロの漫画家や現役の編集者を講師として派遣する計画もあり、夢への実現に向けた企業や地元自治体のサポート体制も整いつつある。

今後も、マンガ・アニメを活用したさまざまな取り組みを展開し、「マンガ県くまもと」として国内外に認知されることで、交流人口の拡大、さらには移住・定住につなげ、マンガ・アニメによる地方創生を目指していく。

《問い合わせ先》

熊本県観光交流政策課　TEL：096-333-2158
熊本県高校教育課　TEL：096-333-2684

大分 Oita



大分県×シエラ・スペース社×兼松 宇宙往還機ドリームチェイサーの着陸地に大分空港を検討～大分空港をアジアの宇宙拠点へ～

大分県は今年２月、米国の宇宙・防衛関連企業のシエラ・スペース社、同社と提携する総合商社の兼松と、大分空港をアジアの宇宙港として活用することに向けた検討を進めるパートナーシップを結んだ。

本提携を通じ大分県は、宇宙ステーションと地球をつなぐシエラ・スペース社の宇宙往還機Dream Chaserのアジアにおける着陸拠点となることを目指し、今後、安全性・環境面の予備検証や経済波及効果など具体的な検討を進めていくこととしている。

宇宙産業は、今後十数年の間に急速に発展する見通しであり、米国大手投資銀行の試算によると、通信や放送、測位、観測など宇宙ビジネスの市場規模は2040年代には120兆円規模に達するという。

世界規模で注目される宇宙ビジネスの分野で、大分空港がいち早く宇宙港としての存在感を示すことができれば、大分県の経済活性化に与える影響も小さくはないと見込まれることから、今後の宇宙港事業の広がりに期待が高まっている。


Sierra Space

《問い合わせ先》

大分県先端技術挑戦課
TEL：097-506-2943

宮崎 Miyazaki

「ソラシドエア　サーフィンセンター木崎浜」オープン！

宮崎市の木崎浜海岸では、東京オリンピック予選も兼ねた世界選手権である「2019 ISAワールドサーフィンゲームス」が開催され、今年８月には全日本サーフィン選手権の開催が決定するなど、宮崎県を代表するサーフスポットである。

そんな木崎浜に今年４月、「ソラシドエア　サーフィンセンター木崎浜」が新たにオープンした。オープニングセレモニーでは除幕式が執り行われ、ネーミングライツ・スポンサー企業の「株式会社ソラシドエア」のコーポレートカラーでもあるピスタチオグリーンで彩られた施設看板がファンファーレとともに初披露された。

このサーフィンセンターには、コイン式温水シャワーや更衣室などを整備しているほか、放送設備やＡＥＤも設置するなど、木崎浜のサーフィン環境の利便性と災害発生時の安全性をさらに向上させている。

県ではサーフィンセンターを、世界トップクラスの選手らがプレーしたワールドサーフィンゲームスの大会レガシーとして木崎浜に整備することで、今後さらに「サーフランドみやざき」を国内外に発信していく中核的な施設になるものと考えている。

さらに、ソラシドエアや日本サーフィン連盟をはじめとした関係機関と連携を深め、本県のサーフィン環境の素晴らしさを広く発信していくことで、サーフィンを活用した移住促進や観光誘客といった成果に結びつけていく。



《問い合わせ先》
宮崎県スポーツランド推進室
TEL：0985-26-7108

鹿児島 Kagoshima

新品種や新商品で日本一を目指す「かごしま茶」

鹿児島県は、茶の栽培面積と荒茶の生産量が共に全国第２位の茶産地であり、2021年度の有機JAS認証面積およびてん茶（抹茶の原料）生産量は全国一となっている。

また、お茶のおいしさを評価する全国茶品評会では、普通煎茶の部で18年連続「産地賞」を獲得するなど、品質面においても高く評価されている。

本県では、温暖な気候と恵まれた立地条件を生かしながら、生産に係るコスト削減を図るため大型機械の導入をはじめとして、茶生産履歴管理システムの活用による安心・安全なかごしま茶の生産や、抹茶や紅茶など多様な茶種・品種の生産にも取り組み、かごしま茶の認知度向上および販路拡大を図っている。

そのような中、2021年５月、茶商や生産者が連携して新品種「せいめい」の産地化を目指す研究会が発足した。この「せいめい」は、鮮やかな濃緑色が特徴で味にも優れ、今後、国内はもとより、抹茶等での海外への販路拡大も期待されている。

また、2022年度は、誰でも簡単においしいお茶が淹れられるフリーズドライ緑茶の商品化と販売を行う茶商への支援を行うこととしており、自宅用や土産用としてはもちろん、茶殻が出ず、軽量で物流コストが削減されることから、航空機内などさまざまな場面での利用が期待される。

県では、今後も生産者・茶商等の関係機関・団体と一丸となり、多様な取り組みを通じて日本一の茶産地を目指す。


フリーズドライ緑茶

《問い合わせ先》
鹿児島県農産園芸課
TEL：099-286-3200

沖縄 Okinawa

沖縄復帰50周年記念事業

沖縄県は、2022年５月15日に本土復帰から50年を迎える。

この大きな節目の年を契機とし、復帰から今日までの歴史を振り返り先人たちの労苦と知恵に学ぶとともに、沖縄の自然や文化等の魅力を県民と共有し、産業等の新たな展望や大型プロジェクト等を広く情報共有、発信することにより、本県の自立的発展と住民が豊かさを実感できる社会の実現に資するため、沖縄県では、42の復帰50周年記念事業を実施する。

一例として、

①幼少（６歳）からシニア（60歳以上）までの全年代が空手演武を競う初めての世界大会「第２回沖縄空手世界大会・第１回沖縄空手少年少女世界大会」の開催（８月１日～８月９日）

②東京国立博物館や九州国立博物館との共催で、「琉球」をテーマとして、沖縄県外にある国の重要文化財などの琉球・沖縄関係資料を展示する過去最大規模の展覧会「琉球 －美とその背景－」の開催（10月～12月）

③首里城正殿の復元への着手を記念した木挽パレードや木遣り行列等のイベントを開催する「令和首里城復興イベント」（10月30日～11月３日）

④ＩＴ産業の高度化と県内全産業のＤＸを推進するため、ＩＴ企業と他産業のビジネスマッチングを創出する展示会「ResorTech EXPO 2022 in Okinawa」の開催（11月17日、18日）

などを予定している。

沖縄にお越しの際は、復帰50年を迎える沖縄を見て、知って、考える機会として、復帰50周年記念事業へのご参加を、ぜひご検討いただきたい。

42の復帰50周年記念事業については、以下のページを参照。

https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/50syuunennhp.html

《問い合わせ先》
沖縄県企画調整課
TEL：098-866-2026

沖縄復帰50周年記念シンボルマーク

表紙説明　※当地域でオススメの観光についてご紹介します。

ゆっくり・おいしい・楽しい列車「ことこと列車」
（福岡県）

「ことこと列車」は、「ななつ星」や「或る列車」を手掛けた水戸岡鋭治氏が車両をデザイン。平成筑豊鉄道の直方駅から行橋駅までを３時間半かけて走る、素晴らしい景色や食事が楽しめる人気のレストラン列車です。列車内の床には幾何学模様の寄木を敷き込み、パーティションや窓の目隠しには、福岡県の伝統工芸である「大川組子」をふんだんに使用、天井にはドイツ製のガラスを組み込んだステンドグラスがあしらわれるなど優美で豪華な造りとなっています。

また、車内では、2018年から４年連続で「アジアのベストレストラン50」にランクイン、2019年にはミシュラン一つ星を獲得した「La Maison de la Nature Goh」のシェフ、福山剛氏が料理監修を行った本格フレンチコース料理をお楽しみいただけます。今年４月にリニューアルしたコースメニューでは、沿線食材を使ったブイヤベース（写真）など地域自慢の食材たちが彩り豊かに並びます。

車窓からは、九州百名山として登山家にも人気の標高901mの「福智山」や、春には満開の桜や沿線を軽やかに揺れる黄色の菜の花をご覧いただけるなど、絶品の料理を堪能しながら、四季折々の風景をお楽しみいただくことができます。

ゆっくりコトコト揺られながら贅沢なひとときをぜひお過ごしください。

※表紙のQRコードより、「ふくおか避密の旅⁺　新しい出会い編」の動画がご覧になれます。



写真提供：平成筑豊鉄道株式会社

《問い合わせ先》
平成筑豊鉄道株式会社　TEL：0947-22-1000

スケジュール（５月）

日（曜）	会合名等
２日（月）	九経連創立記念日振替休日
９日（月）	第169回理事会（福岡市・ソラリア西鉄ホテル福岡）
23日（月）	第１回九州MaaSマッチング交流会（福岡市・電気ビル共創館）

お知らせ：本誌裏表紙に広告を募集します。詳しくは、本会総務広報部（TEL：092-761-4261）までお問い合わせください。

◆九経連ホームページ　https://www.kyukeiren.or.jp
◆九経連メールアドレス　info@kyukeiren.or.jp
月報・ホームページをご覧になったご感想やご意見をお寄せください。

広告

貴社のスマートファクトリー化を実現

これまでのビジネスフローが変わる



生産管理システムである GROTRY(グラトリー) は、
様々な業種、多種多様な生産形態で導入可能です。
また、欲しい機能だけカスタマイズする事で、
導入コストの軽減や短期間での導入を実現します。

工場のスマートファクトリー化に向けて、
AI と IoT は必要不可欠です。
GROTRY では、独自のプラットフォームを用いて、
IoT によるデータ収集や AI による分析など、
スマートファクトリー化をサポートします。

販売・生産管理業務をシームレスにカバー

GROTRY®

生産管理システム

GROTRY システムとは

生産計画の立案から所要量計算・スケジューリング・作業指示・材料や外注の手配・受入・在庫・負荷・進捗・作業実績といった工場にかかわる総合的な管理を行うとともに 、受注・出荷・売掛・請求・入金・仕入・買掛・支払といった販売管理と連携した製販一体型のシステム

ICT で未来を創造する
Qsol

九電ビジネスソリューションズ株式会社
ビジネスソリューション事業部
〒810-0004 福岡市中央区渡辺通 2 丁目 1 番 82 号 電気ビル北館
grotry@qdenbs.com

編集発行人　（一社）九州経済連合会
福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号電気ビル共創館　TEL（092）761-4261（代表）　FAX（092）724-2102　　印刷　ダイヤモンド秀巧社印刷（株）